



倒壊ビル現場 タイ国バンコク 2024年3月31日
〔『クリスチャン新聞』(2025年4月3日付)〕

3月28日、ミャンマーとタイの地震災害の報を耳にしました。2カ国に向かう安価な航空券をすぐに予約しました。30日(日)、「カヨ子基金」代表の佐々木美和と、神戸国際支縁機構の岩村義雄会長は、ミャンマーの巨大地震(マグニチュード7.7)の震源地ザカインから1000キロ離れた隣国のタイ国首都バンコクに同日に赴きました。

31日、未明に、33階建てのビルの倒壊現場(チャトゥチャック)に足を踏み入れました。チャチャート・シティパン・バンコク都知事へのインタビューにより、11名の死者、9名の不明、76名の負傷者、計96名の被害がわかりました。

ミャンマー・マンダレーでの悲鳴

激しい地震です。生きている生命、道路、建造物の様々な叫び声、吠え声、呻きで騒然としたただならぬ空気に満ちていました。現地に4月1日の午後8時に到着しました。病院はさながら野戦病院です。負傷者であふれかえっていました。

訪問したマンダレーのポウオー村(人口28,400人)は被害が最も大きい農村です。深夜から明け方まで、被災者は鼓動が止まるどころか波打っている心臓のようでした。

一晩中、若者たちと心をひとつにして、ふるりの復旧、復興、再建について話し込みました。明るくなつて見る光景はこの世のものとは思えませんでした。この地に平和、愛、希望がもたらさるるよう。倒壊、道路の損壊、家屋の復旧のためみんなで助け合います。「農」に従事するひとが過半数です。トラクターなど農業機械を用いない、農法です。牛を用いています。被災者が毛布で寝ている広場には、あひる、がちょう、にわとりなどがやがやと走り回っています。朝食も食べずに仮眠をとってきた20歳前後のメンバーと村中を巡りました。

ビルマ語、英語を話せなくても、非言語コミュニケーションで通じ合います。課題は、孤児になった子どもたちの世話、治療・医療、生活を賄う救済金が必要です。他国との交流がない軍事政権下です。人類すべてに心の支えをともしてください。



左からミン・タイ・フーさん(20歳)、ニュー・ニーラインさん(20歳)、佐々木美和、トゥー・リザさん(20歳)、岩村義雄、トゥーモウスエン(27歳)。ポウオー村 2025年4月2日。岩村は「はだしのアンクル」と呼ばれました。

「カヨ子基金」は、孤児の家庭建設に必要な100万円、子どもたちの教育費を応援してくださる里親を募集中です。よろしく願います。



ウッケマン村長(51歳) ポウオー村 2024年4月2日

すように。ウッケマン村長(51歳)から、孤児のために「カヨコ・チルドレン・ホーム」を期待されました。

ヤマザキ
世界のパン
ヤマザキ

Otsuka
株式会社 大塚製薬工場
〒772-8601
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
TEL 088-685-1151(代表)

庄司会計事務所
税理士 庄司慈明
税理士 齋藤 茂
石巻市蛇田字中埠 21
0225-93-8743

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA
竹中工務店
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1

日本のコメの輸入・関税の仕組み			
ミニマムアクセス (MA) 米		MA 外のコメ	
年間 77万ト		2024年度は 1497万ト	
無関税		1 ^{トン} あたり 341円	
45% 米国からの輸入は 各国で最も多い		国内のコメ不足を受け、近年の約4 倍の水準に	

【図解】日本のコメの輸入・関税の仕組み

『読売新聞』(2025年4月22日第一面)

東北の地でも、どこでも若者たちが時間、体力、交通費を払ってするボランティアに対して、土気をくじく人がいます。「いつまでやるのか」と若者たちの心をべちゃんこにする無思慮な声も耳に入ります。しかし、私たちは、タコ(他己)の精神です。土を愛しています。園児たちが昆虫を見つけて喜ぶ姿を見て、まだまだ日本は沈没しないと信じます。たった4人のちっぽけな「農」ですが、日本の元気を取り戻そうと、めげずに仕えていきます。身体が不自由でも野田健二兄もあぜの草をきれいに刈っています。応援をおねがいします。

「普段は5キロ購入するのに、3キロしか手が出ない」と人吉市でも嘆いておられます。店頭からコメが消えています。コメ

コメは自分たちでつくるぞー。

熊本支部長

大島健二郎

自産自消「自分で作って、自分で食べる(消費する)」の復幸米に今年も挑戦します。2020年7月4日、球磨川氾濫による52名の死者。約1,020ha、約6,100戸の泥の被害のあった地に60回目の訪問です。なつめ保育園の園児たちと稲に挑戦します。トロトロ層づくり、田植えは4年目です。周囲はほとんどコメづくりの姿も見られなくなりました。10時や3時に、お茶っこするお百姓

田んぼに人間のこころ注ぐ

をこの10年間で約46万戸の農家がコメづくりをやめています。一方、アメリカからは2023年、34・8万トンも輸入しています。政府は米国産コメ輸入拡大案を検討している有様です。

つまり政府はアメリカの農家のために減反を強いて、日本の農業を弱体化させました。自分たちの食糧は国内でまかなえる国に取り戻しましょう。軍事費にけるより農業を生き返らせることを優先すべきです。

稲刈りをしてから半年、鍬などで土を田起させていただきます。大気の息を吹き込みます。栄養で満ちた黒い土が「待ってたよ」と応答してくれます。幾世紀にもわたって人間と共存してきたから、お互いに通じ合うぬくもりがあります。ボクたち園児はトラクター、耕耘機、コンバインをいしません。大切な稲をかわいい手で優しく植えていきます。

農機具の石油、肥料も2倍近くの価格上昇です。私たちは無農薬、有機、除草剤なしだから不景気に左右されません。政治家、官僚、役所の管理を受けなくても、だれでもが小さなスペースで米をつくる楽しい挑戦です。

田植えに用いる苗も、減農薬ではありません。無農薬です。大地にやさしいコメづくりです。儲かるからするものではありません。安全でおいしく健康的だからです。「土」が「こんにちが」と応答してくれま



田起 みんなで土を耕そう
佐々木美和 2025年4月8日

林火事は予測できない

北村恭男理事

作業、儲け主義ではないので、飽きが来ません。関心をもって協力してくださる代農家の亀山繁さん、保原政美さん、津田新一さんもご一緒です。あなたもご近所の空き地を見つけて、「農」をやってみてください。

2025年3月16日、神戸を出て岩手県大船渡の綾里町にボランティアに5人で向かいました。いたるところが焦げ臭いです。「綾里富士」とも呼ばれている大森山(479メートル)がある漁港です。2月26日に、大船渡湾側に延焼した赤崎町で山林火災が発生。3月9日の鎮圧宣言まで2900ヘクタール、210棟

の家屋を管め尽くしました。住まいが港地区にある和田國秀さん(67歳)は収納する合足漁港の網倉庫も焼けました。30人が路頭に彷徨うことになりました。網の復旧に1億を要すると嘆いておられました。拓也さん(33歳)の息子さんと残された第十八丸で海の仕事を続けざるを得ません。家は全焼です。

大明神地区の熊谷三枝子さん(70歳)は3・11の時も、船、網などすべてを失われました。ワカメを出荷するための倉庫も焼けてしまったと私たちに語られました。

災難があっても50戸と協力して乗り切ろうと前向きに神戸からの私たちをむしろ励ましてくださいました。

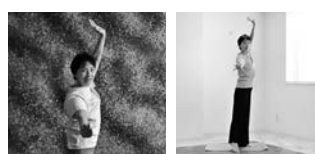


右から、北村恭男、村上裕隆、佐々木美和
明治三陸地震の津波の記念碑 2025年3月17日

31年ぶり、
ゼロから翻訳した新しい聖書

『聖書 聖書協会共同訳』
—2018年12月発行—

全国書店にて
好評発売中です
www.bible.or.jp
日本聖書協会



うきうき健康倶楽部
～肋骨エクササイズスタジオ～
TEL:080-3034-0011

人によし、社会によし、未来によし。

ミヨシ油脂株式会社

〒124-8510 東京都葛飾区堀切4-66-1
http://www.miyoshi-yushi.co.jp

KINSAN
夢に近づく
夢を産み出す...

近畿産業信用組合

総合コールセンター

0120-111-019

16回目、珠洲市、輪島市に向かう

本部長 村上裕隆

未曾有の災害に見舞われた輪島市、珠洲市、能登町。2024年9月21日の水害で、田んぼ、家屋、仮設住宅も諦めねばならないところまで追い詰められていました。神戸からの私たちは何もたいしたことができていません。

白米千枚田では、急斜面にある狭い棚田で、画像の竹上浩幸さん（62歳）は、先祖代々、能登ヒカリを作ってこられています。ご自身の家は山崩れで2箇所の建物が損壊しています。日本海をのぞむおよそ2ヘクタール（約28,036㎡）の斜面に1004枚の小さな田んぼが連なる棚田があります。緑の幾何学模様は絶景です。中には1メートルにも満たない小さな田もあります。農機具は入れられません。栽培は昔ながらの手作業です。去年はなんとか200枚が収穫できました。



竹上浩幸さん（62歳）は、先祖代々、能登ヒカリを作っておられる。

出村正幸さん（47歳）は、東北で悪評の防潮堤を能登半島に造ることに反対しておられます。災害研究の吉川忠寛（防災都市

計画研究所所長）、野坂真（青森公立大学准教授）、石川永子（横浜市立大学准教授）に呼びかけ、地元の珠洲市寺家に招きました。能登の美しい景観を人工の建造物によって損なうことがないようにいち早く立ち上がられました。



左 出村正幸 自宅前。



左から佐々木美和、吉川忠寛、野坂真、岩村義雄 珠洲市寺家 2025年4月21日

『真平家物語』 鬼山御前(2) (第十五回)

熊本県結方医院院長 緒方 俊一郎

屋島の海で扇を小舟に立てていた玉虫御前一家四名も京より四国の戦場へと行動を共にした。父は一の谷で戦死し、母と弟の三名は屋島より壇ノ浦へと平家一族とともに逃れていった。

豊後（大分県）に上陸した玉虫御前一行はさらに南下し慣れぬ山道を日向（宮崎県）に着くと、母は旅の疲れもあって死別し弟久茂とともにさらに逃避行を続けた。自分を隠すために姓を鬼山と改め、源氏の追討を逃れるために日向より肥後領に入つて砥用（トモチ）を経て柿迫に至り、岩奥を安住の地と定め居住した。

とある日、那須与一宗高の嫡男小太郎宗治の一行がこの岩奥を通過した。

玉虫改め鬼山御前は、もしやこの山奥に我々一族の平家の人々が隠れ住んでいるのではないか。そうであれば同族の平家の人々が討たれるのは忍び難いと考え、小太郎宗治一行の跡を追った。

鬼山御前は小太郎宗治に会うと「私はこの地方に住む鬼山というものです。貴方はこの山奥の熊山（五家荘）に平家追討に行かれるとのこと。しかし、ここより少し下ったところに板木村という所があり、そこには人が住んでいます。それがそれより奥は人の住めるところではありません。しばらくこの地にどまつて様子をみられてみてはいかがでしょうか。」と告げ、鬼山御前はともかく宗高一行を引き留めて保口より先にはいかぬように勧めていた。鬼山御前自身も、熊山に平家の落人が住みついていることを知らなかったが、もし平家の一族が隠れ住んでいるとすれば小太郎宗治らは落人を討ち取るに違いないと懸念した。「同族の人たちを討たせぬためにはこの地に引き留めて、その間に熊山の人たちに連絡するほかない」そう考えて宗高一行を引きとどめて自ら那須の一行の人々の一切の世話をしように申し出て、心より尽した。

ここに源氏と平家の敵同士の妙な交流が始まった。

当時、宗治は二十三、四歳の若者で、鬼山御前も二十歳前後の未婚の娘であった。

同じ屋根の下での共同生活は、若者同士が結ばれぬはずはなかった。

鬼山御前は弟久茂との岩奥での生活は何らの希望もなかった。そこへ突然、都よりの若武者、しかも那須与一の嫡男とあれば相手にとって不足なし、はじめは熊山の同族を守るつもりが、異性に対する思慕の念が芽生え深化していった。他方宗治も同様で、奥山で優雅な若い鬼山御前との出会いに当初の平家追討の目的もおろそかとなり、ふたりは源・平の恩讐を超えて夫婦生活を始めることとなった。



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴信

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124
URL: www.tamanohada.co.jp

近き良きパートナーを目指して
設計 住宅・教会・福祉施設など
監理 一級建築士 南 俊治
□ 神戸市中央区八幡通4-2-10-201
□ K: 090-6983-4377
□ E-mail: CQN05405@nifty.com
南俊治建築研究所
https://www.nishimi-architect.com

弁護士法人
芦屋西宮市民法律事務所



津久井 進

日弁連災害復興支援委員会委員長
兵庫県弁護士会前会長

TEL: 0798-68-3161

ミヨシ共栄株式会社

東京都墨田区緑3丁目8番12号

事務局便り

理事長 本田寿久

「権力の力」と「司法の力」の二つが生み出す不幸

2025年3月11日、石川一雄さん（1939生 86歳）が誤えん性肺炎のため亡くなりました。痛恨です。埼玉県狭山市で1963年女子高校生が殺害された事件の取り調べはずさんでした。無期懲役が確定されるも冤罪の裁判をやり直すため、もう一步のところでした。被差別部落への偏見で犯人に仕立てあげた司法の力は恐ろしいです。妻の早智子さん（78歳）は「司法は真摯に向きあうことはなかった。亡くなった今もかかっている『見えない手錠』を外したい」、と。

3月15日（土）、午後1時、大阪駅前「人民広場」で100余名が行き交う人たちに追悼を訴えました。

米軍艦「ウォーリア（《戦士の意》）号」が2025年3月24日、神戸摩耶埠頭に入港しました。朝鮮戦争、ベトナム戦争により港湾労働者は軍事物資や死体の荷役作業で苦勞しました。元米海軍ジーン・ラロック [1918-2016] 提督は1974年、米国議会で、「米艦船は日本に核兵器を持ち込んでいる」と証言しました。そこで神戸市会は、1975年3月18日に、核兵器を搭載していない証明書を外国艦艇に求める決議（非核「神戸方式」）しました。ところが久元喜造神戸市長は、今年、3月21日に米掃海艦「ウォー

リア」の神戸港へ入港について黙許。「非核神戸方式につきましては、従来の考え方を変えるつもりはありません」、と2月26日に答弁したりして、ダブルスタンダードです。

神戸市が18歳と22歳の個人情報（氏名、住所、性別、生年月日）のデータを自衛隊に提供したことについて、憂慮しました。2020年に自衛隊への募集対象者の個人情報提供中止を求める公開質問状をもって抗議しました。徴兵制につながる恐れがあるからです。しかし、「自衛官募集に関する法令の根拠としては、自衛隊法第97条第1項及び同施行令第120条において、自衛官募集事務は市町村がその一部を実施すること、防衛大臣は市町村に対し資料の提供を求めることができる……個人情報提供を制限していますが、法令等の規定がある場合はその限りではない」、と同年12月19日、岩村に返答。中央の総務省出身の久元市長はかたくなにも自衛隊に情報提供を続けています。プライバシー権を保障した憲法13条が踏みにじられています。



岩村義雄会長 大阪駅前「人民広場」
2025年3月15日

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,400円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

・郵便振替

口座 00900-8-58077

加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

・三菱UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863

神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には書ける方は『国名』を書き添えてください。

(一社) 神戸国際支縁機構

ボランティアや移住者募集中

農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。

被災地への支縁物資をお願いします。

年会費をお願いします。(月に200円)

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。

海外の孤児のために支縁金をお願いします。

「小さくされた人々のための福音」講座

毎月第3金曜日 午前10時～
神戸学生青年センター 本館1階

岩村義雄セミナー

毎月第4月曜日
午後6時半～
ミント神戸17階

編集後記

ミャンマー（ビルマ）から来ました。20歳の時に民主化デモに参加し、身の危険を感じました。最初に韓国へ避難しました。UNHCR*に難民申請をしましたが、認められませんでした。日本に自由を求めて、2001年に来ました。すると神戸港で手錠と腰縄で連行されました。大阪入局管理局に1年半収容（収監）されることになりました。精神的な抑圧を受けました。ビスカルド 篤子さん、田中恵子さんたちが応援してくださいました。2003年、UNHCRに難民と認定され、入管から仮放免されました。神戸国際支縁機構の岩村義雄牧師と出会いました。2004年大阪地裁で認定されませんでした。2005年に高裁で認定されました。2014年に日本国籍を取得しました。これまでずっと親代わりに、相談に乗ってくださった空野佳弘弁護士には感謝しています。ですからボクは空野真雲（まうん）と名乗るようになりました。2018年に自動車検査員の資格を取得して、自動車整備士の仕事をしています。2024年4月には、能登ボランティアにも参加させていただきました。祖国であるミャンマーに重荷があり、恩返しをしたいです。 空野真雲

* UNHCR（ニューエイチシーアール）は、国連難民高等弁務官事務所（United Nations High Commissioner for Refugees）の略称。



マウンさんとミャンマー救援の打ち合わせ
神戸三宮 2025年4月27日

救援金、維持会費のご協力感谢您。(敬称略)

2025年1月24日～4月19日

1,147,253 円

佐々木美和、岩村義雄、本田寿久（4）、本田博之、伊東明子、室崎益輝、在日大韓基督教会神戸教会、公益財団法人神戸新聞厚生事業団、青木、マイケル・シャクルトン、山本陽子（3）、前川和弥&幸子（2）、樋口進、阿部和夫（宮城県石巻市）（2）、三上太一、宮本博美、堀内 稔、島田 徹、木村ふみ子（宮城県石巻市）、竹内喜子、森山章一&載子、小笠原真夫、小野寺脩（宮城県 修空館館長）、池永タケコ、若生留実子、河村ひとみ、千葉幸一（宮城県石巻市）（2）、鶴野信子、南 俊治、小川幸枝、中條和子、神戸ユニオン教会、宮坂信章&和子（2）、今井祝雄、満田悟士、秋田喜代子、日本基督教団神戸栄光教会、鈴木敏夫、川上義和、藤田祥子、岡部 徹、鶴崎祥子、宝塚栄光教会（2）、岩間 洋（2）、岩間恵子（2）、坂上留実子、横山恵子（2）、東亜水ルーテル教会、ミヨシ共栄株式会社、佐々木駿一、野田健二（2）、日本自由メソヂスト葛城キリスト教会、廣瀬素子、湯谷茂樹、原 浩司、沖浦宏隆（千葉県布良）（2）、辻本久夫、藤本新作、糸井佳子、中山圭子、嶋田博信（千葉県布良）、山口元（社会福祉法人光朗会）、北村恭男（2）、福田雄二（熊本県相良）（2）、高橋宏和、土手ゆき子、土手 朋、佐久間正昭（丹波市石像寺住職）、藤原りつ子、有田 貞一&美栄子（2）、今村佳代子（佐賀県大町町）、井本敦幸、大島健二郎、後藤由美子、岩本真子（福岡県松本）、塩田憲一、新地和恵、安西玲子、河村紀子、伊藤睦人（福岡県松本）、大野祐弥、日野謙一、伊東明子、岸田まさと、中村優子（佐賀県武雄市）、木村公一、近畿産業信用組合、石巻地区森林組合、ブイ・ティ・オアン（神戸ベトナム人会会長）、佐藤成美（神戸栄光教会）、イエス・キリスト聖成伝道教会、山本 稔、明石バプテストキリスト教会。

支縁を感謝します。

フードバンク関西、本田寿久からコード類、土手ゆき子からパブリカ、丹野典彦（宮城県渡波）から海苔、本田 巧から海苔、新堀美恵子（千葉県布良）から貝など（2）、樋口伸生（西光寺住職）から菓子、泉原澄子（石川県輪島市）から亥の子、有田美栄子からヤキソバ、前川和弥&幸子から果物など（2）、岡野彩子から書籍『善き力』、岩本真子（福岡県松本）から手製袋、出井洋子（福岡県松本）から栗きんとん（2）、樋口由紀枝（福岡県松本）から干し柿等（2）、松末地域コミュニティ協議会から茶菓、梶原ミドリ（福岡県松本）からネギ等、コーヒー（2）、中村優子（佐賀県武雄市）からコーヒー、鳥越肖男（熊本県人吉市）から温泉券、椿本博久（明石バプテストキリスト教会）からウォーター・ポット、熊谷三枝子（岩手県大船渡綾里）からメカブなど、丹野典彦（宮城県渡波）からコーラ、佐藤晴美（宮城県渡波）からなめこなど、丹野恵子（宮城県石巻市）から海苔、樋口伸生（西光寺住職）から飲料、阿部都（宮城県石巻市）からいなり寿司、土森靖佳からパン、平澤久紀澤から弁当、ミン・タイク・オー（ミャンマー）から卵、ウッケマン村長か（ミャンマー）から朝食、（山田初子熊本県相良）からいちご、山内美千子（熊本県相良）から金柑煮、出村正廣&裕子（珠洲市寺家）からワカメ、坂口昭信&由紀子（珠洲市寺家）からワカメ、小谷福哲&由喜枝（千葉県布良）から菓子